

立教開宗750年を 迎えるに当たり

山田 信正
頭本法華宗務総長



発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成8年2月16日
第13号

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

編集委員会より「貴派における立教開宗七五〇年を迎える具体的な体制」と云う標題で執筆する様にとの御依頼があったが、私共の宗派では未だ、そこまで至らず、これからの歩みと現状、及び抱負だけを述べてみることにする。

去る昭和二十七年に立教開宗七〇〇年をお迎えし、門下各派は、それぞれの立場に応じて記念事業を成し遂げられた。しかし当時は終戦後僅か七年、それも、企画及び準備等を加えれば、おそらく昭和二十三、四年頃から始められたのではないだろうか。

当時は、全ての機関が未だ完全に元の通り復興はしておらず、日蓮宗宗務院も浅草清島町の元統一閣内に借住居の状態、国民の戦争の傷痕は未だ生々しかった。その様な状況

下においてその準備たるや大変なものであったと思う。だが私達の先師、先輩の諸上人は多くの苦難を乗り越えて立派に多くの記念事業を遂行された。それは偏りに仏祖三宝の御加被によるとはいえず、信仰による集団の力ではないだろうか。また建長五年に立教開宗された日蓮大聖人の御魂が七〇〇年後の昭和に大きな光を与えて下さったのである。奇しくも、その日は米國が対日講和条約発効の日でもあった。そして七五〇年を迎える平成十四年もあと数年で訪れてくる。あの当時の先輩諸上人の御活動を目のあたり見て来た私達は、七〇〇年に負けない、いやそれ以上の事業を以て祖恩に報いねばならないという気持が勃々と沸いてくるのを覚える。そして、あと五十年経た八〇



総本山妙満寺
釈尊より日蓮聖人に伝持された正しい佛教の法統を直受して、日什大正師が根本道場と定めた本堂。750年記念瓦募金のポスターの原画として使用する。



山田信正宗務総長

〇年の時、私達の成し遂げた諸事業の跡を見聞し、または企画実行される後継者達に「五〇年前の先輩はよくやった」と云われたものである。また私達も「後に続く者を信ず」と大見得をきりたいものである。

震災地援護のため 募金活動

頭本法華宗も昨年三月、宗議会で「奉讃事務局」を設立するという議決をし、また今年三月までにそれぞれの分野において事業等を研究され、近く大綱が示されることになっている。

しかしその前にどうしてもやらねばならぬ大きな事業があった。それは総本山妙満寺の本堂及び付属建物一切の屋根瓦の葺き替えである。御承知の通り、総本山妙満寺は二条寺町より現在地岩倉に遷堂して三十余年を経過した。前地と現在地とは氣候変動等により瓦の損傷甚しく、(今の瓦は前地よりそのまま移動して貰いたいものである)このまま放置しておくとい大事になるので、七五〇年記念事業の一つとして行なうことに決定し、奉讃事務局の出来る前にこの大事業に執りかかった。全

国宗務所長を通じて、末寺及び檀信徒にお願いをし一日も早く完成をさせようと関係者の意気込は凄かった。その募金の最中、突如起きたのが阪神大震災であった。他の御門下もそうであるように、震災地の援護を第一として、直ちに対策本部が設立され、全国寺院檀信徒に呼びかけ、

開宗七五〇年 奉讃への道

記念事業と云うものは数多くの題目をならべただけではなんの役にも立たない。あくまでも実行である。実践は信仰より始まる。我が開祖日什大正師は六十八歳にして天台宗より改宗され、全国に布教されたのも信仰の顕れである。そこには御開祖の純一無雑の信仰がある。立教開宗奉讃の意義もそこにある。私達は、宗祖・開祖の芳躅をお慕い申し上げつつ七五〇年の奉讃の道を進んでゆかねばならない。かつて昭和の始め「佐藤紅緑」(サ

トウハチロウの父)が少年向けの雑誌に「地に爪跡を残す者」と云う題で小説を連載し、多くの少年達を沸きたせたことがある。私達人間は地球の上に足跡を残すことは大変なこと、中々出来るものではない、と云って何もしなければ、何も残らない。せめて爪の跡でも残したいと云うのがこの小説の大意であったと思ふ。私達門下の人達は、七五〇年に向い祖恩報謝のために、爪の跡でも残してゆきたいものである。



日什大正師御靈廟

お願い

「門連だより」の継続発展のため各地のご協力を切にお願いいたします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。
「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

從地涌出

◆昨年一月十七日未明の阪神大震災に続いて、三月二十五日には東京で戦後最悪のテロ事件、オウム真理教による地下鉄サリン事件が発生した。この二つの大きな出来事は、数々の教訓を残すことになる。◆就中オウム教団によるサリン事件は、宗教界にとって衝撃的であった。新興宗教とはいえず、一宗教団体が警察・国家に對して、テロ行為を犯していたからだ。◆それにしても将来有望な若者をそこまで暴走させてしまった原因は何であろう。一口に学歴偏重による「ひずみ」と、簡単に結論づけて良いであろうか。教育機関にのみ責任転嫁させる訳にはいかない。今こそ既成宗教がこの機に立ち上がるべきではないか。◆残念な事は、オウム教団のこの一連の事件に對して、門連としての統一見解が未だに発表されていないことだ。一教祖のカリスマ性があれだけ多くの若者を魅きつけたということは、潜在的に誰でもオウムの信者に成り得るのである。◆宗教の本質とは愛と慈悲の実践である。生きとし生ける者への哀れみを注ぐことにある。宗教本来の目的を忘れてしまえば、今後既成宗教に對して風当たりが強くなるだろう。◆元検事の堀田力氏は、人間の心には元来「助け合う遺伝子が組みこまれていて」と、平素から話されていた。阪神大震災では、全国から延べ二十万人の人がボランティアに駆けつけた事でそれが証明された。心の底に眠っていた慈悲の心が、今回の大震災で甦ったのである。◆平成十四年には立教開宗七百五十年を迎える。この大事業を名実共に成就するには、日蓮大聖人の御意志に恥じぬ決意が門下全体の急務であり、僧俗が異体同心する機会でもある。(柳)

いまも守る寺宝護持を

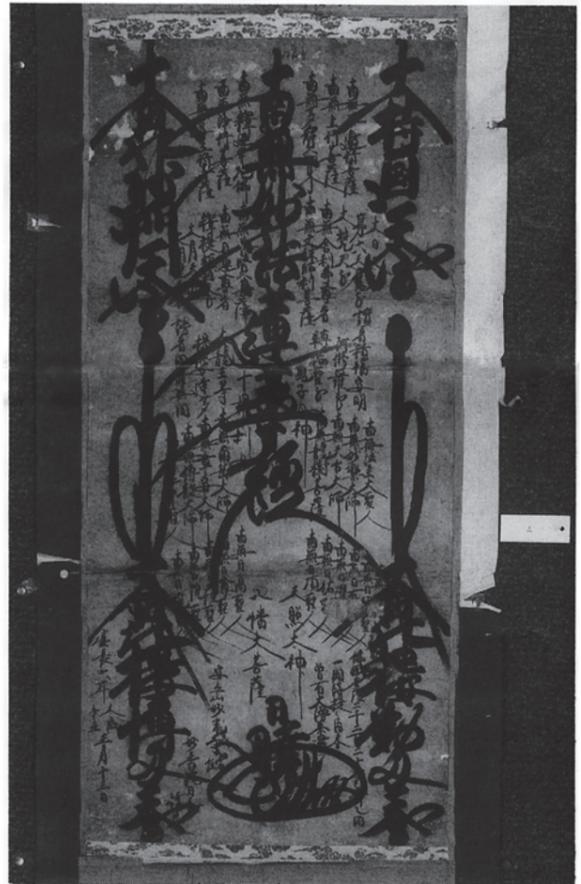
一、寺宝の意義

日本の各地を旅しますと、そのあらゆる町や村に、寺院の姿を見ることが出来ます。その多きは、到底他国の比ではないでしょう。しかも、お堂の中に安置されている仏・菩薩の木像といひ、美しい仏具といひ、目を見張るものがあります。

少々大きいかもしれませんが、日本の寺院は聖なる宝物で満たされている、と云ってよいでしょう。これを文化財の方面からいいますと、寺院は実に文化財の宝庫なのです。お堂の戸を開くと、すぐそこに由緒のある宝物がいくつもあって、容易に触れることができるというのは、世界的に見ても類例がないことといえます。

このことが却って寺院の閉鎖的な性格をもたらしているという、大変厳しい批判も生まれるのですが、やはり伝統の重みをズッシリと感じるのが日本の寺院といえます。

日蓮聖人が新しい宗派を開かれてから、もう七五十年にもなろうとしています。この長い歴史を物語る



日蓮上人のお曼茶羅——表装は壊れてしまっている——

聖物が、日蓮宗ないしは法華宗の寺院には満ちているのです。

寺院の「宝物」といえば、何百年も前の古い時代に作られた、由緒のある特別な聖物と考えられることが多いのですが、決してそうではありません。

二、傷んだ寺宝

「日蓮宗・法華宗は新しい宗派」という誤解から、長い間その寺宝は文化財として高い評価が与えられませんでした。指定文化財があちこちによく見られるようになったのも、そんな古いことではありません。

このような観念は宗門自体にもあって、宝蔵に仕舞ってあるもののは、寺宝としてあまり顧みないという傾向が窺われます。いわば「文化財に慣れない」とでもいうべきでしょう。

もうひとつ注意すべき点は、特定の寺宝をあまりにも大切に考えて、

ません。もう百年も経てば立派な宝物ですから、僧侶であり教師である私たちも、それぞれ宝物を作り出す立場にあるのです。

ですから、私たちは「寺院の歴史を語り、未来を意味づけるのが寺宝である」と、自信をもって定義することが出来ます。「寺宝」とは特殊な聖物ではなくて、常に私たちとともにあるものといえます。

「秘すべし秘すべし」と蔵の奥深く仕舞って、気がついた時には重大な事態になっていたというケースがあります。その反対に、団体の参詣者になややく拝観させるため、紙でできた宝物を、陳列棚に何か月も掛けっぱなしにしているという、困った事実があるのです。

こんなわけで、寺宝の多くは長い年代を経た、いわば老人の体のようにな弱くなっているのです。その上に間違った扱いをされたのでは、それこそたまったものではありません。

「寺宝は傷ついている」といって、厳

三、不慮の災害

平成七年は、日本にとって大変不幸な事件が、いくつも起きた年でした。寺院も相当な被害を受けました。とくに阪神大震災では、寺院の建物とともに、数多くの寺宝が失われてしまったのです。

その上、日蓮聖人ご真蹟のお曼茶羅をねらった犯罪者が、数か寺の本山を襲って宝蔵に侵入し、とうとういくつもの実害が出ました。この事件を詳しく調べてみますと、寺宝の管理に甘さがあつたことがよくわかります。寺宝の護持に関するかぎりは、日蓮聖人門下の諸寺院が、他の宗派に比べて無関心な一面があるように思えます。

もうひとつ考えなくてはならないことがあります。その寺院にどのような寺宝があるかという、いわば寺宝の記録が整っていないことです。かつては、寺院の代替わりに当たっ

しい現実をよく見据えなくてはならないのです。

しかも、七百年の歴史を誇る伝統教団としての宗門は、これら一寺一寺の寺宝を、法財としてしっかりと護り、後世に相続していかなくてはならないのです。伽藍の景観を整えることも必要ですが、これらの傷つ

ける法財を永遠に護持するために、たえず整理し修理を加えることを忘れてはなりません。

日蓮聖人門下の諸教団では、全体的にみてこのような配慮が、とかくすると忘れがちになっている傾向があり、残念なことです。



中尾 堯文
立正大学教授

四、寺宝

七五十年前に日蓮聖人が予言されたように、世相はますます末法の様相を強くしていきます。このよ

今こそ、寺宝をしつかりと護持するとともに、法財としていかに新しい生命を吹き込むかについて、真剣に考えなくてはならないのです。来たるべき開宗七五十年は、まさにこのような願いを結実させるべき、まことに有意義な年にほかなりませ

■団体旅行には東急観光をご利用下さい。
8営業本部・国内150支店・海外23事業所が
お待ちしております。

- 本社・団体顧客部
〒153 東京都目黒区東山3-8-1
電話 03-5704-3761
- 北海道営業本部・販売部
〒060 北海道札幌市中央区北二条西2-1-5
電話 011-241-0303
- 東北営業本部・販売部
〒980 宮城県仙台市青葉区中央1-6-18
電話 022-263-1711
(青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県)
- 関東営業本部・販売部
〒153 東京都目黒区大橋1-5-3
電話 03-5489-6777
(茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県横浜市・新潟県・山梨県・静岡県熱海市)
- 東京営業本部・販売部
〒153 東京都目黒区大橋1-5-3
電話 03-5489-6760
(東京都・神奈川県横浜市・川崎市)
- 中部営業本部・販売部
〒460 愛知県名古屋市中区丸の内2-17-18
電話 052-232-1721
(愛知県・富山県・石川県・福井県・長野県・静岡県静岡市・浜松市・三重県)
- 関西営業本部・販売部
〒541 大阪府大阪市中央区瓦町4-2-14
電話 06-226-1090
(大阪府・奈良県・京都府・京都府福知山市・兵庫県・奈良県・和歌山県)
- 中国営業本部・販売部
〒730 広島県広島市中区立町2-27
電話 082-249-0109
(広島県・鳥取県・島根県・岡山県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県)
- 九州営業本部・販売部
〒810 福岡県福岡市中央区天神1-15-3
電話 092-712-2561
(福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県)

ないが、
あつた旅。



東急観光
東急観光がご案内いたします。

〒153 東京都目黒区東山3-8-1 東急観光大橋ビル5階 ☎03(5704)3761

祈

立教開宗七五〇年

奉讃円成

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

管 長	田中 日淳	護法伝道部長	栗原 正震
宗務総長	奥邨 正寛	立教開宗七百五十周年 顕彰会事務局長	新井 貫厚
宗務副総長	田中 学貞	現代宗教研究員	石川 浩徳
総合企画部長	渡辺 清明	参 与	堀江 宏正
庶務部長	小倉 光雄	参 与	白部 健順
財務部長	星 光喩	日蓮新聞社社長	原 智栄
教務部長	齋藤 邦昭		

〒146 東京都大田区池上一―三三―一五
電話 〇三(三七五)七二八(代)
FAX 〇三(三七五)七一八六

法華宗(本門流)宗務院

管 長	久保木日秀
宗務総長	川口 日唱
教学部長	三浦 成雄
財務部長	原井 慈鳳
庶務部長	桃井 普城
教化部長	坂巻 顕導

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一)四七五(代)
FAX 〇三(三九一)七九九四

顕本法華宗宗務院

管 長	吉永 日晴
宗務総長	山田 信正
宗務次長	藤崎 光学
財務部長	田島 敏義
布教部長	早川 義正
教務部長	小島 顕明
社会部長	川崎 英宗
庶務部長	島田 幸晴

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九)七一七一
FAX 〇七五(七九)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長	竹嶋 日香
宗務総長	牧野 琢成
総務部長	土屋 善敬
教学部長	都築 哲信
教化部長	金原 戒雄
財務部長	江坂 隆俊
宗務参事	竹内 敬覚

〒170 東京都豊島区巢鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一)七二九〇
FAX 〇三(三九五)〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講 有	御 牧 日 勤
講 導	梶 本 日 齋
宗務総長	小山 日 誠
宗務副総長	笹 田 日 昌
宗務副総長	佐 藤 政 司

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東堅町一―〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六一)五五九九

日蓮本宗宗務院

管 長	嘉儀 日有
宗務総長	佐藤 智明
総務部長	原 眞昭
教学部長	柳下 義眞
財務部長	高橋 寛承

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七)三三九〇
FAX 〇七五(七七)五九一四

法華宗(真門流)宗務院

管 長	真枝 日世
宗務総長	上田 浩岳
総務部長	堀内 邦雅
教学部長	辻本 寛孝
教化部長	蕤輪 溪谷
財務部長	田中 諦常

〒602 京都市上京区智恵院通り五上ル紋屋町
電話 〇七五(四四)五七六二
FAX 〇七五(四四)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長	吉村 日義
宗務総長	高辺 信幸
宗務部長	信隆 允忠
財務部長	増田 隆雄
総務部長	藤井 宏長
庶務部長	山下 通雄
教務部長	音羽 隆全

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五)三五一七

宗教法人 国柱会

会 長	田中 香浦
理 事 長	三田 道弘
副 理 事 長	入江 克郎
門連常任理事	大橋 邦正
本部事務局長	田中 隆一

〒132 東京都江戸川区一之江六一―九一―八
電話 〇三(三五六)七一―二(代)
FAX 〇三(三五六)九九八〇

京都日蓮聖人門下連合会

会 長	嘉儀 日有
副 会 長	金山 日龍
理 事 長	佐藤 智明
副 理 事 長	杉若 惠隆

京門連事務局
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八要法寺内
電話 〇七五(七七)三三九〇
FAX 〇七五(七七)五九一四

日本山妙法寺

首 座	上野 行量
長 老	老 塙 行 幸
長 老	石 山 善 邦
日印サルホヤ交友 会会誌発行編集人	今 井 行 順

天鼓出版発行編集人
日本山妙法寺事務局
〒113 東京都渋谷区神泉八―七
松 谷 被 鏡



祈・立教開宗750年 奉讃円成

<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六六(二)一〇一一 FAX 〇五五六六(二)一〇九四</p> <p>法主 岩間 日勇 総務 藤井 教雄 役員 一同</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 東京都大田区池上一一―一 電話 〇三(三七五)二二三一 FAX 〇三(三七五)二三三〇</p> <p>眞首 田中 日淳 役員 一同</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七一七一 FAX 〇七五(七九)七二六七</p> <p>眞首 吉永 日晴 総務 中村 通義 執事 津村 乗信 執事 安東 靖弘 執事 山本 晃道 執事 小松 正学</p>	<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 新潟県三条市西本成寺一―一 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八</p> <p>眞首 竹嶋 日香 執事 眞保 行宣 執事 笹原 壯玄 執事 西山 英仁 執事 平井 良光 執事 鈴木 顕正</p>
<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上丸屋町 電話 〇七五(四四)五七六二 FAX 〇七五(四四)五六六六</p> <p>眞首 眞枝 日世 執事 長岩 崎峻 暉 執事 笹木 研秀 役員 一同</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五)三三二七</p> <p>眞首 吉村 日義 執事 飯田 信栄 役員 一同</p>	<p>日蓮本宗本山 要法寺</p> <p>〒602 京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七 電話 〇七五(四五)九三九〇</p> <p>眞首 嘉儀 日有 大学頭 丹治 日遠 執事 長佐 藤智 昭明 執事 原下 眞昭 執事 柳義 貞昭 執事 高橋 寛承</p>	<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602 京都市上京区一条通七本松西入流ア麻町一〇五―一 電話 〇七五(四六)四六二〇(代) FAX 〇七五(四六)四六五一</p> <p>住職 御牧 日勤 二十一世 眞有 事務局 長 小倉徳治郎 信徒 総代</p>
<p>立教開宗之靈地 出家得度</p> <p>日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇(九四)〇五二五</p> <p>別当 杉山 日慎</p>	<p>日蓮宗大本山 妙顕寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺ノ内堀川東入</p> <p>眞首 山田 一光 執事 長原 光司</p>	<p>日蓮大聖人御靈跡 日蓮宗大本山 本圀寺</p> <p>勅諭にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の靈跡</p> <p>〒607 京都市山科区御陵大岩町六 電話 〇七五(五九)九一九一</p> <p>眞首 久村 諦道</p>	<p>日蓮宗大本山 北山本門寺</p> <p>〒418-01 静岡県富士宮市北山重須 電話 〇五四四(五八)一〇〇四</p> <p>眞首 片山 日幹 執事 長田 中慈 潮</p>
<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272 千葉県市川市中山二―十一 電話 〇四七三(三四)三四三三</p> <p>眞首 長瀬 日還 執事 富田 義董 執事 関田 観康 執事 新井 智清 執事 植田 観泰 執事 広野 観順 執事 土田 勝宏</p>	<p>久遠成院日親上人御靈窟 日蓮宗本山 本法寺</p> <p>重文涅槃図長谷川等伯筆 名勝巴の庭本阿弥光悦作</p> <p>〒602 京都市上京区小川通寺ノ内上ル 電話 〇七五(四四)七九九七</p> <p>眞首 金山 日龍</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八 電話 〇三(三三)六二四一 ※平成五年度隨身生募集中</p> <p>山主 駒野 教格</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東大菊町九六 電話 〇七五(七七)〇五六二</p> <p>眞首 土屋 学周 執事 山田 完修 執事 新井 智清 執事 加藤 通雄 執事 藤井 照源 執事 川合 陽雄 執事 二之部 知孝</p>

門連時報

門連京都理事会、開かる

日蓮聖人門下連合会京都理事会、京都門下連合会との懇談会が去る十一月二十七日、京都本山本法寺を会場として開催された。午後一時金山日龍貫首御導師、杉若恵隆京都門下連合会理事長、同岩崎俊暉副理事長、副導師にて法味言上の後、記念撮影、引続き宝物館にて長谷川等伯の大涅槃図を始め光悦の墨跡、日通上人の模写本、日親上人筆三大秘法抄等貴重な御宝物を拝観、金山貫首、立正大学仏教学部専任講師寺尾英智師の解説を拝聴した。

午後二時三十分より開議、奥部正寛理事長発声にて玄題三唱挨拶の後、十月十八日御遷化された法華宗真門流宗務総長鎌泰信師の御冥福を祈り玄題三唱。

出席者全員自己紹介の後、奥部理事長座長となり議事進行。

議題

一、門連上半期事業報告が事務局よりなされ諒承。(幹事人事の変更、門連だより編集委員更新)

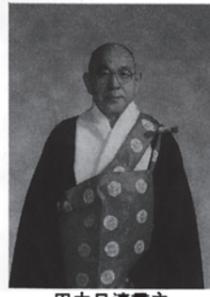
二、京門連事業報告が児玉宜海師よりなされ諒承。開宗会、夏期大学会、お会式など活発な活動が報告された。

三、地方門連活動報告については大阪門連三田村宗鳳師より報告、合



日蓮聖人門下連合会 京都理事会
(平成7年11月27日、於本山本法寺)

第48代日蓮宗管長に 池上本門寺 田中日淳貫首就任



田中日淳貫主

平成七年十一月三十日日蓮宗宗務院で管長推戴委員会が開催され、任期満了に伴う次期管長職の推戴につき協議、その結果池上本門寺の田中日淳貫首を推戴。本門寺では参与法類会合同会議を経て十二月五日正式に推戴を受け、第

四十八代日蓮宗管長に就任することとなった。

十二月二十一日、宗務院で推戴奉告式が行われ、二十五日内局を帯同し、祖廟奉告式を行った。

田中宛下は東京都大田区照栄院を経て昭和六十三年三月本門寺貫首に就任。宗門では制度研究委員、開教布教対策委員、日蓮宗総合財団理事、宗務顧問などを歴任、本門寺執事兼中、同寺宗祖第七百遠忌報恩事業会事務局局長を勤め、遠忌事業の推進に尽力された。

同お会式、研修会などの活動報告がなされた。

北海道門連については白部健順師より未だ軌道にのった活動はなし得ないが、将来に向けての意欲が披露された。

次に立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関する件に入り、提案者大橋邦正常任理事より、法華経信仰者にスポットをあてた仮称「法華文化展」構想について説明がなされた。右展

観会構想について専門家としての立場から立正大学中尾堯文教授の提案が寺尾師より発表された。展覧会実施構想については、今後更に専門家を交えた企画の具体化をはかり、常任理事会に於て継続審議していく事となった。

午後四時半議事を滞りなく終え会場を北区「しょうざん」に移し、懇親会を行い散会した。

▼人事(事務局へ連絡日も含む)

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平七・四・八	藤田日淨師 久保木日秀師	法華宗本門流管長 法華宗本門流管長	顧問 顧問	就任	退任
五・二	本田義遠師 杉若恵隆師	京門連理事長 京門連理事長	常任理事 常任理事	就任	退任
六・二	野口日桂師 竹嶋日香師	法華宗陣門流管長 法華宗陣門流管長	顧問 顧問	就任	退任
六・三	田島敏義師 芹澤泰謙師	顕本法華宗 法華宗本門流	監査 監査	就任	退任
七・一八	永井祥文師 渡辺清明師	日蓮宗 日蓮宗	常任理事 常任理事	就任	退任
九・二七	金山日龍師	京門連会長	理事	就任	
一・一〇	信隆允忠師 山下通雄師	本門法華宗 本門法華宗	理事 理事	退任	

「門連だより」 編集委員

日蓮宗 富川 孝恭 (編集長)

- 山口 裕光
- 矢吹 慈英
- 大森 俊栄
- 多門 顕正
- 鈴木 昭雄
- 今井 満良
- 深澤 泉奥
- 柳下 正則
- 吉田 勝秀
- 斎藤 秀慈
- 木村 光正
- 秋場 善弥
- 藤井 照源
- 相澤 宏明

舞楽法会

橋雅友会公演
(門連より有志出演)

とき・平成8年3月6日(水)
午後6時開場

ところ・国立劇場(小劇場)

入場料・四〇〇〇円

▼祖廟輪番奉仕

- 七・〇九〜一〇 国柱会
- 七・四一 沖 鳳龜師 (日蓮宗・京門連会長)
- 七・三三 遠藤日護師 (日蓮宗・門連顧問)
- 七・〇六 長鎌泰信師 (法華宗真門流宗務総長・門連理事)

▼慶弔関係法要

- 七・六三 法華宗陣門流竹嶋日香管長御入山式出席

▼事務局関係

- 七・八一 柴田和延・生駒雅幸 幹事退任
- 八・一 富川孝恭幹事就任
- 一〇・三〇 小林正雄幹事就任

豪華本 日蓮聖人傳繪巻

日蓮宗総本山身延山久遠寺蔵

全カラー頁 定価20,000円



久遠寺総務 藤井教雄師

編者：文学博士 小松茂美
監修：身延山久遠寺
発行：(株)日蓮宗新聞社
編集協力：古筆学研究所

体裁・内容
B4判変型/布装上製本/貼箱入り/保護函入り豪華本/オールカラー総214ページ(図版・詞書・縁起・解説・訳文付) 内容見本送呈

ご注文は
(株)日蓮宗新聞社
〒146 東京都大田区池上7-23-3
TEL03-3755-5271・FAX03-3753-7028

(株)せいしん
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延4252
TEL05566-2-3033・FAX05566-2-1033

立教開宗750に向け完成
植中直齋入魂の聖人絵巻

絵：植中 直齋
書：藤井 教雄・小池 英淳

かつて、日蓮宗の教学に心を潜めた植中直齋画伯との邂逅は、誠に幸いであった。風物描写から歴史画へ、さらに修学による日蓮聖人の生涯を脳裡に収めての丹精をつくした一八画面の絵巻。

みずから起草した詞書には、同学小池英淳師の染毫を加え、ここに古筆学の第一人者小松茂美博士並びに神崎充晴氏の助力のもと、「日蓮聖人伝絵巻」全36巻の新装完成。先考日静上人と二代にわたる精誠善根を、ここに結実する。このたび絵巻完成を記念して、図録の一本を編み、宗祖の遺徳を偲び奉るよすがとして、世に送る次第。広く江湖の清鑑を望むところである。



各派・教団 短信

顕本法華宗

3月5日、6日、定期宗会。平成7年度予算、総本山妙満寺瓦募金、立教開宗七五〇年記念事業、阪神・淡路大震災義援金等について承認された。

5月13日、14日、総本山妙満寺では、恒例の春季大法要が奉行された。本年はとくに、13日午前10時から、阪神・淡路大震災殉難の方々の追悼法要が行われ、14日午後1時より、終戦五十周年戦没者追悼法要が吉永日晴院下大導師のもと厳修された。

7月21日、8月3日、妙塔檀林が総本山妙満寺に於いて開講された。7月24日、27日、顕本少年錬成会橋会錬成会を総本山妙満寺を会場に全国より80名余の青少年が参加。10月19日、東部僧員布教研修会。11月16日、西部僧員布教研修会。「新々宗教について」講師に国学院大学日本文化研究所教授井上順孝先生を招いて開催。(大森俊栄)

日蓮本宗

平成6年5月8日、本山要法寺御開山日尊上人第六百五十遠忌大法要が厳修された。その折全国末寺檀信徒から申し込まれた六千余霊の法号を記載した大霊簿(祥月命日ごと)に各霊が記載されたものと併せて、宗門の永年の念願でもあった富谷日震上人著の「本宗史綱」の復刻版が御宝前に奉納された。

平成7年7月10日を以て任期満了となる佐藤宗務総長は、かねてより退任の意志表示を示していたが、本年2月21日開催の第六十回定期宗会門末会に於いて再任を要請する声が

強く、議会の総意を以て再任された。以下新当局は次の通り、日蓮本宗宗務総長 佐藤智明師 本山要法寺執事長 原 真昭師 日蓮本宗財務部長 柳下義真師 本山要法寺執事 高橋寛承師 本山要法寺部長 柳下義真師 本山要法寺執事 高橋寛承師

なお門末会議員・本山総代・各教区宗務所長等の任期も8月末を以て満了となり、それぞれ新人事が決定した。

御開山日尊上人第六百五十遠忌記念事業として推進されてきた本堂・開山堂大屋根全面修復工事(平成四年完工)に引き続き、本年当初から客殿・大書院・庫裏等の全面改築工事が着工され、平成7年11月30日に上棟式を終えて、愈々翌平成8年7月には完工、来る同年10月13日御大法要と併修した落慶法要を迎えるまでに至る。

今次大戦の最大の被災地である広島・長崎において、平成7年戦後五十周年を記念する世界恒久平和・万国殉難者慰霊法要が、6月19日・21日の日程で僧俗合わせて百余名の参加者を得て奉修された。(柳下正則)

法華宗真門流

2月、布教師会、教区所長会、開催。4月、学林開講。6月、教学講習会開催。8月、北海道学林、本山講習会開催。9月、各教区講演会開催(檀信徒のつどい)。10月、初轉法輪挙式(会式の初)。

10月18日、長鎌泰信宗務総長遷化。12月、定期宗会、後任総長推薦。平成8年1月、内局発足。

法華宗陣門流

総本山本成寺 祠堂大法要(5月27日・29日)が厳修された。1日目、御歴代法要に引き続き陣門講。2日目、永代祠堂靈位・納骨靈位追善法要、寂光殿法要、終了後に米寿表彰。3日目、戦没者追悼法要、世界平和・交通安全祈願の法要、終了後に野口日桂院下御退山式が厳修された。

御退山式では、法灯相統の証を御返還なされ、今年には天災・人災が続く最近の世情にふれ、「一四海皆歸妙法」の国家を作って頂きたい、我々宗門も努力しなければならぬ」と

力強く話された。6月21日本成寺第八十五世、竹嶋日香院下の御昇山式が厳修された。法灯相統の儀終了後、本堂に於いて歓迎式が行なわれ、真枝管長院下・山田総長・奥邸総長を始め本宗宗会議長・教区所長・本山総代等が御祝いの辞を述べた。最後に対面の間に於いて、屠蘇の儀が行なわれ、新貫首祝下誕生となった。

宗務院に於いて11月28日布教研究所所員会、12月29日・30日新任職・学生・沙弥合同研修会、12月1日昇級検定試験、今年最後の行事が無事終了した。(鈴木昭雄)

本門佛立宗

年頭に佛立第二十一世講有・御牧日動上人より「年頭のことば」が全国の同信教講に発せられ、同時に小山日誠宗務総長から「平成8年度の宗務方針」が発表された。

平成8年は、佛立宗として「高祖日蓮大士立教開宗七百五十年・報恩御奉公スタートの年」と位置づけ、宗門活性化と弘通意欲の向上を計るため宗門改革に取り組み、来る平成14年までに、七万五千人の報恩教化を成就させて頂く旨の誓願を立てた。

昨年12月7日、滋賀県今津町にて「佛立センター開発造成の起工式」が、今津町等関係者参列のもと、執行された。

佛立研究所では昨年、門祖日隆大聖人の「本門戒体見聞(略称・三帖抄)」「佛立研究学報・第4号」をそれぞれ刊行した。

来る3月4日には「第五回佛立研究所・研究発表大会」が、3月5日・6日には「中央教師研修会」が、京都本山並びに宗務本庁にて開催される。

5月には、本門佛立宗、ハワイ別院が開設二十周年にあたり、御講有・御牧日動上人、ハワイ別院開設功労者・権大僧正長谷川日尊上人など、有縁の教講参列のもと、現地に於いて記念式典が営まれる予定。

被災寺院宛に義援金をおくった。本年1月16日には、尼崎・大本山本興寺において一周忌追悼法要が奉修された。

戦時下の昭和16年「曼荼羅国神不敬事件」として、当時宗門の要路にあつた五人の先師が検束された。このうち苅谷日任・林橋諱秀の両学林教授は起訴されるに至り、四年半に及ぶ法廷闘争の末、大阪控訴院において免訴の判決が下り、青天白日の身となったのが昭和20年10月24日であった。これより50年。この日は法華宗真俗にとつて「御法門を護り貫いた日」として顕彰され、昨秋10月24日、京都・大本山本能寺において「法華宗昭和法難免訴五十周年」を記念して、先師の御法勞を偲ぶ報恩法要、併せて開宗七五〇奉讃事業園成祈願法要を宗門主催により厳修し、記念講演の後に会場を、値難の上人が龍山結界の修行をなされた比叡山無動寺谷・玉照院に移して唱題行を行った。

古来、日蓮聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた興隆学林専門学校(「尼崎市・大本山本興寺内」)の平成8年度新入生募集中。(矢吹慈英)

日蓮宗

平成7年4月12日、終戦五十周年沖繩宗門法要が奥邸宗務総長御導師のもと、僧俗五千人により厳修された。

平成7年10月17日、横川定光院に於いて宗門史跡指定日日蓮聖人銅像建立七十周年宗門法要が奉行され、約五百人の僧俗が参詣した。

平成7年12月21日、第四十七代日蓮宗岩間日勇管長院下任期満了による御勇退により、第四十八代日蓮宗管長に池上本門寺貫主田中日淳院下が就任され、日蓮宗宗務院において管長推戴式が行われ、12月26日、身延山に於いて、祖廟奉告式を行った。

平成7年4月25日、阪神大震災物故者百箇日追善法要を厳修し、平成8年1月17日、一周忌慰霊法要を二千五百人の僧侶遺族・関係者により厳修された。(富川孝恭)

被災寺院宛に義援金をおくった。本年1月16日には、尼崎・大本山本興寺において一周忌追悼法要が奉修された。

戦時下の昭和16年「曼荼羅国神不敬事件」として、当時宗門の要路にあつた五人の先師が検束された。このうち苅谷日任・林橋諱秀の両学林教授は起訴されるに至り、四年半に及ぶ法廷闘争の末、大阪控訴院において免訴の判決が下り、青天白日の身となったのが昭和20年10月24日であった。これより50年。この日は法華宗真俗にとつて「御法門を護り貫いた日」として顕彰され、昨秋10月24日、京都・大本山本能寺において「法華宗昭和法難免訴五十周年」を記念して、先師の御法勞を偲ぶ報恩法要、併せて開宗七五〇奉讃事業園成祈願法要を宗門主催により厳修し、記念講演の後に会場を、値難の上人が龍山結界の修行をなされた比叡山無動寺谷・玉照院に移して唱題行を行った。

古来、日蓮聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた興隆学林専門学校(「尼崎市・大本山本興寺内」)の平成8年度新入生募集中。(矢吹慈英)

京都門連

平成七年度会務行事。1月27日理事会。於大本山妙満寺。2月16日総会。於大本山妙満寺。降誕会。於大本山妙満寺。導師・本山本法寺貫首金山寛成院下、講師・本山隆寺貫主真枝院下。3月9日理事会。本山本法寺。4月28日開宗会。於比叡山大講堂。導師・本山立本寺貫主藤田佳正院下、講師・本山要法寺執事長佐藤智明院下。

5月31日理事会。於本能寺会館。8月30日夏季大会。於本能寺会館。金山寛成(本山)、小野文流(大学)、嵐圭史(一般)の各氏が講師を奉行。

8月30日理事会。於本能寺会館。10月5日奉行委員会。於本山妙満寺。10月7日御会式。於本山妙満寺。導師・本山妙満寺貫主三谷恵遠院下、講師・総本山本隆寺貫主真枝院下。11月9日理事会。於N T T鴨川荘。11月27日全門京都理事會。於本山本法寺。12月14日理事會。於本能寺会館。(藤井照源)

国柱会 十年(平成6年) 11月記念大会 記念事業として「日蓮主義教学大観」復刊(全五巻、頒価四八〇〇円)。平成7年4月28日、第六十五回身延登詣団。5月23日、26日、仏教伝来謝恩碑参拝団柱会訪韓団。毎月、例月供養会式後、御聖日回向文講義。6月25日、札幌で真世界文化講演会。田中会長講演。機関誌「真世界」8月号特集「大東亜戦争と終戦五十年」の施本運動。9月26日、国立能楽堂で田中智学作の能「後の羽衣」と狂言上演。10月9日、10日、第31回身延大祖廟輪番給仕団柱会奉仕団。御門下を代表し田中香浦団長以下、昼夜不断の唱題ご給仕。10月12日、恒例の池上本門寺における屋外宣伝。11月3日、近畿地方連合会で桃山御陵参拝団。11月16日、17日、恩師田中智学先生第五十七回忌報恩大会。11月18日、19日、国柱会定例協議員会。11月、「日蓮主義研究」第18号発行。平成5年開始の「みどりの日」を「昭和の日」に改める署名運動を継続展開中。運動の主体となつている国民ネットワーク準備会が企画協力して、5月19日「戦後五十年記念シンポジウム」を開催。田中智学門下青年協議会では鎌倉と土浦で研修会。(秋場善彌)

蓮主義教学大観」復刊(全五巻、頒価四八〇〇円)。平成7年4月28日、第六十五回身延登詣団。5月23日、26日、仏教伝来謝恩碑参拝団柱会訪韓団。毎月、例月供養会式後、御聖日回向文講義。6月25日、札幌で真世界文化講演会。田中会長講演。機関誌「真世界」8月号特集「大東亜戦争と終戦五十年」の施本運動。9月26日、国立能楽堂で田中智学作の能「後の羽衣」と狂言上演。10月9日、10日、第31回身延大祖廟輪番給仕団柱会奉仕団。御門下を代表し田中香浦団長以下、昼夜不断の唱題ご給仕。10月12日、恒例の池上本門寺における屋外宣伝。11月3日、近畿地方連合会で桃山御陵参拝団。11月16日、17日、恩師田中智学先生第五十七回忌報恩大会。11月18日、19日、国柱会定例協議員会。11月、「日蓮主義研究」第18号発行。平成5年開始の「みどりの日」を「昭和の日」に改める署名運動を継続展開中。運動の主体となつている国民ネットワーク準備会が企画協力して、5月19日「戦後五十年記念シンポジウム」を開催。田中智学門下青年協議会では鎌倉と土浦で研修会。(秋場善彌)

古来、日蓮聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた興隆学林専門学校(「尼崎市・大本山本興寺内」)の平成8年度新入生募集中。(矢吹慈英)

日蓮宗 平成七年度会務行事。1月27日理事会。於大本山妙満寺。2月16日総会。於大本山妙満寺。降誕会。於大本山妙満寺。導師・本山本法寺貫首金山寛成院下、講師・本山隆寺貫主真枝院下。3月9日理事会。本山本法寺。4月28日開宗会。於比叡山大講堂。導師・本山立本寺貫主藤田佳正院下、講師・本山要法寺執事長佐藤智明院下。

国柱会

国柱会創業百年(平成6年) 11月記念大会 記念事業として「日蓮主義教学大観」復刊(全五巻、頒価四八〇〇円)。平成7年4月28日、第六十五回身延登詣団。5月23日、26日、仏教伝来謝恩碑参拝団柱会訪韓団。毎月、例月供養会式後、御聖日回向文講義。6月25日、札幌で真世界文化講演会。田中会長講演。機関誌「真世界」8月号特集「大東亜戦争と終戦五十年」の施本運動。9月26日、国立能楽堂で田中智学作の能「後の羽衣」と狂言上演。10月9日、10日、第31回身延大祖廟輪番給仕団柱会奉仕団。御門下を代表し田中香浦団長以下、昼夜不断の唱題ご給仕。10月12日、恒例の池上本門寺における屋外宣伝。11月3日、近畿地方連合会で桃山御陵参拝団。11月16日、17日、恩師田中智学先生第五十七回忌報恩大会。11月18日、19日、国柱会定例協議員会。11月、「日蓮主義研究」第18号発行。平成5年開始の「みどりの日」を「昭和の日」に改める署名運動を継続展開中。運動の主体となつている国民ネットワーク準備会が企画協力して、5月19日「戦後五十年記念シンポジウム」を開催。田中智学門下青年協議会では鎌倉と土浦で研修会。(秋場善彌)

国柱会 十年(平成6年) 11月記念大会 記念事業として「日蓮主義教学大観」復刊(全五巻、頒価四八〇〇円)。平成7年4月28日、第六十五回身延登詣団。5月23日、26日、仏教伝来謝恩碑参拝団柱会訪韓団。毎月、例月供養会式後、御聖日回向文講義。6月25日、札幌で真世界文化講演会。田中会長講演。機関誌「真世界」8月号特集「大東亜戦争と終戦五十年」の施本運動。9月26日、国立能楽堂で田中智学作の能「後の羽衣」と狂言上演。10月9日、10日、第31回身延大祖廟輪番給仕団柱会奉仕団。御門下を代表し田中香浦団長以下、昼夜不断の唱題ご給仕。10月12日、恒例の池上本門寺における屋外宣伝。11月3日、近畿地方連合会で桃山御陵参拝団。11月16日、17日、恩師田中智学先生第五十七回忌報恩大会。11月18日、19日、国柱会定例協議員会。11月、「日蓮主義研究」第18号発行。平成5年開始の「みどりの日」を「昭和の日」に改める署名運動を継続展開中。運動の主体となつている国民ネットワーク準備会が企画協力して、5月19日「戦後五十年記念シンポジウム」を開催。田中智学門下青年協議会では鎌倉と土浦で研修会。(秋場善彌)

日蓮聖人門下連合会 目的 本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

事業 本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。 1、祖廟護持の組織強化 2、教育事業の提携 3、布教の連合強化 4、懇談会・研究会・講演会等の開催 5、各種出版物の刊行 6、海外布教の提携及び交流 7、対外的な各種の運動 8、その他

加盟団体 日蓮宗 法華宗本門流 顕本法華宗 法華宗陣門流 本門佛立宗 日蓮本宗 法華宗真門流 本門法華宗 国柱会 日本山妙法寺 京都門下連合会

るつうぶん 文通 流 通 文 通 ぶん ぶん *第十二号は平成五年二月十六日に発刊されましたが、その後十三号の発刊が遅れに遅れ誠に申し訳なくお詫び致します。次号からは遅れないよう富川新編集長を中心に編集委員一丸となって努力致し度決意を固めています。ご協力ご鞭撻を程、宜しく願います。*かけがえのない宗宝の格護は重要な問題であり、昨今の盗難のニュースは心が痛みます。ご門下共通の問題として、立正大学の中尾莞文先生にご執筆頂きました。*今年には、宮沢賢治生誕百年にあたり、各地でイベントが企画されています。賢治の活動は、法華経の教理、本仏の慈悲、日蓮聖人のみ教えのお取次ぎにあつたことは「法華経」贈呈の遺言や辞世の歌にも明らかです。彼の志を活かすためにも信仰の原点を探求し明らかにしなければと思います。(秋)

るつうぶん 文通 流 通 文 通 ぶん ぶん *第十二号は平成五年二月十六日に発刊されましたが、その後十三号の発刊が遅れに遅れ誠に申し訳なくお詫び致します。次号からは遅れないよう富川新編集長を中心に編集委員一丸となって努力致し度決意を固めています。ご協力ご鞭撻を程、宜しく願います。*かけがえのない宗宝の格護は重要な問題であり、昨今の盗難のニュースは心が痛みます。ご門下共通の問題として、立正大学の中尾莞文先生にご執筆頂きました。*今年には、宮沢賢治生誕百年にあたり、各地でイベントが企画されています。賢治の活動は、法華経の教理、本仏の慈悲、日蓮聖人のみ教えのお取次ぎにあつたことは「法華経」贈呈の遺言や辞世の歌にも明らかです。彼の志を活かすためにも信仰の原点を探求し明らかにしなければと思います。(秋)